

令和4年度第1回学校運営協議会長情報交換会 議事録要旨

日 時 令和4年7月5日（火）9時30分～11時30分

場 所 二宮町町民センター 2A クラブ室

出席者 出席 11名

- ・二宮小学校 大矢 学校運営協議会長、北川校長
- ・一色小学校 小野寺 学校運営協議会長、橋本 地域学校協働活動推進員、中西校長
- ・山西小学校 山中 地域学校協働活動推進員、藤田校長
- ・二宮中学校 加山 学校運営協議会長、伊庭校長
- ・二宮西中学校 泉 学校運営協議会長・地域学校協働活動推進員、和田校長

欠席 3名

- ・二宮小学校 山内 地域学校協働活動推進員
- ・山西小学校 宮戸 学校運営協議会長
- ・二宮中学校 石井 地域学校協働活動推進員

事務局 5名

教育総務課

下條課長、田中課長代理（指導主事）、安藤指導班長（指導主事）、高橋主任主事

生涯学習課

竹本課長代理

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・資料1 令和4年度 第1回 二宮町学校運営協議会長情報交換会 出席者名簿
- ・資料2 令和4年度二宮町学校運営協議会長情報交換会 概要
- ・資料3 令和4年度 小中学校 学校運営協議会開催日程（予定）
- ・資料4 令和3年度 第2回学校運営協議会長情報交換会 会議録

1 開 会	
2 自己紹介	
3 コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動について	
事務局	・学校運営協議会長情報交換会の開催日程等について（資料2） ・各校の学校運営協議会の開催日程について（資料3） ・昨年度までの課題等について（資料4） 課題：学校運営協議会間の連携強化、情報発信の強化 方法：本会議に加えて、各学校の学校運営協議会の会議録を町HPで公開。 各校でもHPや広報紙等を活用して情報発信に引き続き取り組んでいただきたい。
4 情報交換	

二宮小	各部会の活動紹介 ①学びふれあい部会 ・地域の人材と学校の教育課程とのマッチングが課題。 ・放課後子ども教室の活動をサポートしている。既に2回実施。参加者は75名(6/13)、99名(6/27)。ボランティアの数は約20名。 ・放課後子ども教室でも地域の人材が活躍できるようにしたい。 ②校外安全部会 ・学校運営協議会委員がPTAの会議に参加するなどPTAとの情報交換を大切にしている。学区内の危険箇所についてもPTAと一緒に教育委員会に要望を伝えている。PTAの地区懇談会の再開に向けて相談にのっている。 ③環境整備部会 ・樹木選定等を行っている。 ・米ぬかを提供してくれる人がいて、SDGsの観点も含めたい肥づくりを行っている。 ④その他部会 ・緊急時の対応 ・R3年度は不審者情報が多かったため、マチコミを通じて、関係者にすぐに周知できるようにした。 ・エアコンのフィルター清掃を町で予算化するよう要望した。 ・放課後子ども教室参加者の声を町に伝えていくことで、お迎えが任意となった。 ・ウォーターサーバーを学校にも設置するよう要望した。 ・今後も教育環境向上のために行政に要望していく。 ・子どもSOSの家を有効活用したい。町内に約700か所ある。そのうち、二宮小学区では約400か所ある。子どもだけでなく、高齢者の安全にもつなげていきたい。二宮町PTA連絡協議会の主催でスタンプラリーの実施に向けて検討中である。 ・令和5年度には、施設分離型小中一貫教育校が開設する予定だが、学校運営協議会についての見通しが示されていないことに不安を感じている。 ⑤150周年記念事業準備委員会 ・R5年度の秋に開催されるふるさとまつりの前後で共催できないか検討している。今年度9月に実行委員会を立ち上げて準備を本格化させていく。
二宮小	・学校運営協議会は学校の応援団ととらえている。学校運営協議会委員に学校のこと（子ども、職員、施設）をよく知ってもらうために、対話を大切にしている。対話を通じて、互いに理解し合い、子どもたちにとってよりよい教育ができるようにしていきたい。時間がかかることもあるが、着実に前進していると実感している。
二宮小	・学校行事の入場制限がある中で、学校運営協議会委員は教職員と同じ立場で参加できる。仲間として認められているようで嬉しい。感謝している。
一色小	・おやじの会など今年度も相互に補い合いながら多種多様な活動を行っている。 ・入学式の飾りつけを地域のサポーターに依頼した。他にも、「ちょこっとお掃除サポート」「カブトムシ未来プロジェクト」「タオルをぞうきんに生まれ変わらせようプロ

	ジェクト」等を行っている。その他にも先生から要望を聞いて企画を立ち上げていく。 ・活動に参加する人が気持ちよく関わられるようにそれぞれの温度感に敏感でありたい。また、常に子どもを中心に考えて活動にかかわっていききたい。 ・情報発信が大事になる。情報の受け手が、「これならば参加できる」と思えるように情報発信の内容や方法を工夫していきたい。 ・子ども SOS の家については、防犯が目的だったが、熱中症対策として休憩地点としても活用できるようになるとありがたい。
一色小	・サポート活動が活発化して、広がりや深まりが出てきた。 ・サポーターの経験値が上がり、地域学校協働活動推進員がいなくても活動が展開されるようになってきている。また、サポート活動を継続的に行うことで、教員との信頼関係も深まってきている。 ・これまでは、顔見知りの方に声掛けをしていた。今後は、サポーターを広く募集して活動の幅を広げていく段階にステップアップさせたい。そのためには、広報活動が大事になってくる。どんなにいい活動を行ったとしても、伝わらなければ広がらない。校内の掲示板に活動内容を掲示して保護者や子どもに周知するとともに、様々な媒体により多くの人に発信している。
一色小	・地域のサポーターが学校で活動することが当たり前になっている。 ・子どもたちも「ちょこっとお掃除」をしてくれる方に自然にありがとうと伝えている。 ・地域のサポートにより、子どもたちが笑顔になり、先生もその活動の良さに気づく。持続可能なものにしていくための仕組みづくりが今後の課題である。
山西小	・学校運営協議会にて学校経営の組織図、グランドデザイン、学校の年間計画、コミュニティ・スクール予算等を提案して協議。 ・学校運営協議会は3部会で構成。 ・「見守り部会」…家庭数の減少により、旗振り当番の回数が増えている。特に釜野地区はローテーションがはやい。保護者の負担を軽減できないか部会で検討中。また、各地区の保護者からアンケートをとって危険箇所を把握している。 ・「環境美化部会」…学期末の大掃除を担当。児童では届かない高い所や扇風機や薬品を扱う所を清掃。また、敷地内の植栽にも取り組む。 ・「学習支援部会」…地域学校協働活動推進員が先生からの要望を聞いて、外部講師との調整を行っている。学習活動の広がりを生んでいる。 ・放課後子ども教室の人気の高い。子どもたちも生き生きとした表情で参加している。今年度は年間12回開催予定。 ・PTAでは、ベルマークを集める活動の他、イベントも企画している。今年度は、「HANDSIGN」を招く予定。 ・学校運営協議会は、身内のような関係と考えている。 ・令和5年度から分離型小中一貫教育校となる。それに伴い、PTAや学校運営協議会はどうなるのだろうか。まだはっきり示されていない。

山西小	・「学習支援部会」担当として、夏休みを利用して先生と話をし、ニーズを把握していきたい。 ・放課後子ども教室の回数が年 12 回に増えた。登録者は 6 月現在で 150 名弱。6/10、6/17 に実施。参加者はそれぞれ 118 名、130 名。サポーターの参加者は、子ども自然塾や昔遊びの団体の方を中心に 10 名程度。子どもの参加人数が多いため、帰宅方法など安全面で特に心を砕いた。夏休みには、東大跡地での活動も予定している。雨天時の活動や屋外で活動する時の熱中症対策等が今後の課題である。
二宮中	・5/9 に第 1 回学校運営協議会を開催。メンバーの入れ替わりもあったため、お互いをよく知ることが大切にした。昨年度の活動をベースにして今年度の内容を熟議した。 ・「学習支援部会」…昨年度実施した寺子屋教室。高校生がボランティアとして参加してくれたことは、中学校の生徒にも好評だった。課題は場所と時期。児童館だと参加者が減ってしまう。また、学校でもテスト前に学習相談会を開催しているため、すみわけも課題であった。今年度は、学校で開催される学習相談会のスケジュールを事前に確認して、より効果が高まるように企画していきたい。 ・「修繕活動」…昨年度実施したトイレ、椅子等の修繕活動は継続。今年度は、学校からのリクエストがあつてから動くのではなく、備品や設備を自ら点検して未然に防ぐこともあわせて行うなど主体的な取り組みにしたい。 ・「地域との連携」…昨年度は秋まつりとイルミネーションを実施。今年度は PTA と協力して防災イベントを開催予定。町の避難所会議からも意見をもらい、準備を進めている。 ・中学生は、小学生以上に自主的に動く場面を行事等で目にする。学校目標「主人公」と子どもの姿が合致している。生徒が地域活動に主体的にかかわっていけるようにしたい。 ・学校運営協議会を知らない人もいる。PTA 本部にいても詳細を知らなかった。広報活動が重要になる。
二宮中	・地域の方に学校のこと（子ども、教員、施設等）を知られていない。学校も地域のことを知らない。互いに状況を知ることが大事。 ・学校職員も学校運営協議会のことを十分理解していない。協議の内容に応じて、行事担当、研究担当、安全担当など様々な職員に学校運営協議会に参加してもらい、地域の方と顔を合わせる機会を大切にしている。 ・小中一貫教育校になった場合、学校運営協議会についても小学校との連携が大事になる。二宮小学校学校運営協議会と情報を共有していくなど、できることから連携を深めていきたい。
二宮西中	・PTA の役員構成及び活動内容の見直しを進めている。R5 試行予定。 ・案として、卒業までの 3 年間に、PTA 活動を含め様々な活動に参加してもらい、活動に応じてポイントを付与する制度にする予定。校内の活動だけでなく、地域の消防団や地域のお祭りなど地域活動に参加した場合もポイントを付与する。そうすることで、地域にも学校にも目を向けてほしい。地区によっては校外委員が地区のお祭り

	に参加するなど、地区ごとの事情があるため、地区長にも確認し、地域活動について情報報集している。 ・これまでの PTA 広報紙は、子どもたちの様子を伝えるものであったが、今後は、地域の方がボランティアとして参加して取り組んだことを発信して、PTA の活動内容や学校と地域との繋がりを周知していくことを優先する。最終的には、PTA の位置づけを役員というよりもサポーター、ボランティアとしたい。 ・ポイント制については多くの賛成をもらっている。トライ＆エラーの精神でチャレンジしていきたい。 ・二宮西中でも朝ごはんキャンペーンを実施。予想より少なかったが 13 名応募。実際は 12 名が参加。子どもの反応も上々。今後参加する人数が増えていくとよいと思っている。
二宮西中	・地域からの手厚いサポートがあることに感謝。 ・体育祭に学校運営協議会から 3 名参観。 ・体育祭では、写真撮影のボランティアを募ったところ、快く参加してくれた方がいた。得意な分野をいかして協力してくれる人がいる。情報発信を大切にしたい。 ・防災対策に力をいれている。9/22 に森本晋也氏を招いて講演を行う予定。生徒だけでなく、保護者や地域の方にも声をかけていく。オンラインでも参加可。
事務局	・学校にもウォーターサーバーを設置する方向で調整中。 ・令和 5 年度分離型小中一貫教育校開設に向けておおさわ学園（三鷹市立）を視察。視察校の校長先生が「分離型小中一貫教育校の成功の秘訣は、コミュニティ・スクールを一つにしたことである」と話していた。今後の参考にしたい。三鷹市では、PTA は学校ごとに、学校運営協議会は学園で 1 つに統合した。 ・現段階では、各学校の CS を盛り上げていくことが大事。一方で、一色小学校の中学校の進学先がわかれることは検討課題である。 ・森本晋也氏は元教員で現在は文科省に所属。釜石の奇跡を導いた一人。防災教育をテーマに講演している。災害を自分事にすることの重要性を伝えている。 ・朝ごはんキャンペーンを通じて、朝ごはんの重要性を発信する取り組みもされている。 ・各校の共通課題として、学校運営協議会の活動の周知及び情報発信があがっていた。情報発信により地域の人材発掘にもつながる。
二宮小	・学校運営協議会の活動を学校 HP、PTA 広報誌に掲載してもらった。現在は、学校運営協議会の足元を固めていく段階である。まずは、身近な媒体を通して知ってもらうことを大切にしたい。
一色小	・「ちょこっとお掃除サポーター」は週に 2 回実施。活動日には、誰かしら掃除をしている状態が数か月続いた。4 年生の国語科で手紙を書く学習活動があった。誰に書いてもよいという設定の中、ボランティアにお礼の手紙を書いた子どもが 2 名いて大変うれしく思う。 ・学校にはいつも誰かしらボランティアがいることが子どもたちや先生にとっても当

	たり前になっている。子どもたちも「生活科の人だ」「山の人だ」と認識している。ボランティア活動を積み重ねていくことでCSの認知度が高まってきていることを実感。内側から浸透が進んでいる。 ・SNSを活用して情報発信している。HPは自分から情報を求めないといけない。しかも発信する側も更新頻度をあげないと効果は薄い。SNSは、写真をとって簡単にアップできる。閲覧する人も情報更新に気づきやすい。更新頻度をあげないとなかなか外部の人は見てくれないが、それでもコアな人は見てくれている。学校のことをもっと知りたいと思っている地域の人が多いはず。今後、小中一貫教育校は地域の人材を活用せざるを得ないと考えている。今のうちから地域の人が学校の教育活動を知っておくことは重要である。小中一貫教育が始まってから動き出しては遅い。学校の教育活動を見ることを大事にしたい。
一色小	・数年前は、「コミュニティ・スクール」の言葉の説明から始まった。今は、言葉の説明は必要ないくらいに当たり前になってきた。この制度を肌感覚で理解する人が増えていると実感。子どもたちも言葉として「コミュニティ・スクール」を理解しているわけではない。地域住民がボランティアとして学校にいることを当たり前ととらえている。言葉ではなく、肌感覚で理解することが大事。
二宮西中	・今できることから始めていくこと、情報発信していくことが大事。自分にも何ができるか考えていきたい。
二宮西中	・保護者の立場として考えると、自分の子どもが関わっていないと無関心になる。発信した情報を見てもらうためには、自分の子どもが活動に関わっているかどうかは大きい。子どもを中心にして行事を企画していくことが大事。町の体育祭を子どもたちに企画させてみることも地域の発展につながっていくのではないかな。
二宮小	・学校運営協議会との関わりが深いのはPTA役員。しかし、PTA役員は1年で交代する。よって、年度はじめに丁寧にあいさつすることを毎年繰り返している。学校運営協議会の活動が少しずつ地に足がついてきている。
事務局	・旗振りの話が出たが、各小学校の状況はいかがか。
二宮小	・学校規模は大きいですが、就学前の子どもがいる家庭や、介護をしている家庭もあり、旗振りが難しいケースもある。
一色小	・PTA 校外委員と地域の見守りの人が集まって情報共有する機会をもち、誰がどこでどの程度で行っているかを確認した。旗振りは、PTA が子どもたちのために始めたものである。保護者が旗振りを継続できないから、地域の方に当番に入ってもらったのではなく、まずはPTAの中で旗振り箇所を見直し、それらの現状をよく知ってもらった上で、どうしてもできないところを地域の人などにお問い合わせする方法がよいと考える。
山西小	・旗振りの回数を減らしてもよいが、交通事故のニュースが報道されるとやめられなくなる。 ・ボランティアの方から「保険はどうなっていますか」と質問を受けることがある。保障の対象とするためには、事前に名簿に名前を載せることになってしまう。組織に加入することなく、自主的にかかわりたいという人もいる。このあたりが課題。

事務局	・保険は二P連で加入していると思う。また、学校運営協議会の活動においては、町が加入している町村会総合保険の対象になる。
一色小	・子どもを見守る時のマニュアルを皆で共有することが大切だと考える。以前、見守り時のマニュアルを作成して配付したことがある。
事務局	・そのマニュアルをぜひ共有してほしい。
山西小	・マスクの着脱について子どもを叱ったボランティアがいた。
事務局	・熱中症対策として登下校時はマスクを外すことを地区長会でも伝えている。今後も時と場合に応じてマスクの扱いは柔軟に対応していくことを周知する。
事務局	・部活動改革について ・中学校の部活動を段階的に地域に移行していく。 ・その背景には、子供たちが減少して学校単位でチームを組めない現状がある。また、部活動により労働時間が長くなり、過労死ラインを超える中学校教員が多くいる。これらは教育委員会も課題としてとらえている。 ・国もスポーツ・文化活動を持続可能な形で行っていくための仕組みづくりをしたいと考えている。 ・まずは令和5年度～令和7年度を改革集中期間と位置づけて、休日の部活動を段階的に地域に移行していく。可能であれば、平日も移行していく。 ・二宮町として、町のスポーツ協会にも国の動きについて情報共有した。今後は生涯学習課やスポーツ協会とも連携していく。 ・二宮町の課題は、人材及び団体の確保である。今後、学校運営協議会にも相談することになると思う。
事務局	・現在、県から教職員に部活動指導の手当てが出ているがわずかである。地域移行する際、受益者負担も課題となるが、その判断は各自治体に委ねられている。令和7年度には形にしていきたい。地域の人材発掘にもつながるため、コミュニティ・スクールでもぜひ話題にしてもらいたい。
二宮小	・学校運営協議会の組織を小中一貫教育に合わせてどう変化させていくか。なるべく早い段階で示してほしい。見通しが立たないと不安に感じる。グループ内の学校運営協議会同士で情報共有していきたい。
事務局	・コミュニティ・スクールをグループごとに統合すると、中学校の進学先が分かれる一色小学校のCSはどうなるのかという課題が生じる。現在、分離型小中一貫教育校開設に向けて準備を進めているが、コミュニティ・スクールについて検討するまでに至っていない。
二宮小	・そういった議論の過程をぜひ示してほしい。
事務局	・夏休み前には、分離型小中一貫教育校の準備経過について、保護者あてに文書を配布する予定である。
山西小	・学校運営協議会が今後どうなるか示されていないことに不安を感じる人もいる。 ・次回の会議では、事務局側から学校運営協議会の組織について提案してもらい、学校運営協議会の位置づけを確認する場としたい。そして第3回では、その協議結果を

	踏まえ、令和5年度の各校の動きについて検討する場としたい。 ・各校の学校運営協議会の取り組み状況は文書で共有する程度にしてもいい。
二宮小	・学校運営協議会だけ蚊帳の外になっているように感じる。
一色小	・組織ありきではなく、9年間を通して身につけさせたい力や子ども像を議論の出発点にしたい。二宮町として目指すべき教育を共有してから、それぞれの学校でできること、それを実現するための組織を考えていくべきではないか。まずは、先生たちが議論している内容や方向性を知る機会が欲しい。組織論はその後。
一色小	・子ども SOS の家について、コミュニティ・スクールが制度化されたにもかかわらず、毎回、課題共有にとどまり議論が先に進んでいかない。コミュニティ・スクールと PTA が連携して議論を進めていきたい。
二宮小	・子ども SOS の家は、今後、高齢者の安心安全にもつなげていける。 ・町内に約 700 カ所もある。この仕組みを改良して有効活用したい。
事務局	・二 P 連で取り組んでいるものであり、行政が主導する話ではない。二 P 連の考えを聞いて後押ししていくのがよいと考える。
二宮小	・プレートを更新する補助金を出してほしい。
一色小	・二 P 連がやっていたころは、コミュニティ・スクールはまだなかった。地域の声を集めて、二 P 連とコミュニティ・スクールで話し合う場を設けるのはどうだろうか。
事務局	・各学校の PTA と学校運営協議会で協議を始めてみてはどうか。
一色小	・PTA 役員は 1 年交代が基本であるため、各学校の PTA では対応が難しい。また課題として二 P 連にまで届かない。より大きな組織で対応していくことが必要。
二宮小	・二 P 連の会長の任期は？
事務局	・1 年交代である。
一色小	・二 P 連と学校運営協議会の協議を町が主催することに抵抗があるのか？ ・自分の経験上、各学校の PTA の会長では決断が難しい。二 P 連で何ができるか考えた方がいい。
事務局	・次回の日程について提案
5 閉 会	